



ぶとう特報

No.8 H27. 7. 17
J A 中野市営農センター
J A 中野市ぶどう部会

- ◆7月11日からの高温により、各品種で日焼け果の発生が見られます。日焼け果はしっかり取り除きましょう。
- ◆ハダニ類、クビアカスカシバ成虫の発生が確認されています。薬剤散布は、樹冠、主幹へもたっぷり散布して下さい。

露地ぶどう生育状況

(7/8 現在 須坂果樹試)

	H27	前年比	平年比
横径	22.9mm	118.2%	127.8%
縦径	25.5mm	118.6%	123.6%

着房数を確認し着果過多に注意する。袋掛け時に再度着果量を確認し、赤熟れぶどうにならないようご注意ください。

また、袋かけの際は果実の濡れ状況を確認しなるべく濡れていない時間帯に袋かけを実施するようにしましょう。

あわせて、日焼け高温対策として、棚面の明るい所、西日の強く当る所は傘かけも実施するよう努めて下さい。

【第9回ぶどう農薬散布】

散布時期	7月下旬～8月上旬（袋かけ直後の防除から 10 日後）			
散布薬剤	水	100ℓ	散布日	月 日
	ICボルドー66D	2.5kg		
	テルスター水和剤	100g	散布量	ℓ
	ビックマグ（葉面散布剤）	100g		
＊ICボルドー66Dに代えてボルドー液を作成する場合は、展着剤を水100ℓあたり20ml加用し、「4－4式（生石灰 400g・硫酸銅 400g）」とする。				
散布量	たっぷり 400ℓ 以上			
適用病害虫	べと病・晩腐病・さび病・チャノキイロアザミウマ			
注 意 点	※テルスター水和剤の加用は散布直前の混用とする。スリップス（クモ、やぶ蚊）発生園			
	①ICボルドーに代えて4-4式ボルドーでもよい。（※下記作成方法参照）			
	②建物・ハウス等への農薬汚れが心配な場合はICボルドー66Dに代えて、コサイド3000の2,000倍 または ムッシュボルドーDF 500倍を散布してもよい。（農薬の粉立ちがしにくい）			
	③ハダニ類発生園はピラニカ水和剤2,000倍（収穫30日前まで、1回）を直前混用して散布する。			
	④べと病発生園は、ICボルドー66Dに代えてライメイフロアブル4,000倍（収穫14日前、3回）を散布する。			
	⑤ボルドー液散布の際は、近隣の畑に飛散しないよう散布する。（汚れ・もも・プラム等への薬害注意）			

【※4-4式ボルドーの作り方について（水100ℓに対し硫酸銅400g、生石灰400g）】

- ①生石灰に生石灰の3倍重量の水をまぜて消化させ、温度が下がるまで放置する。（火傷、火事注意）
- ②消化した石灰に全水量の1～2割（10～20ℓ）の水を加え、石灰乳とする。
- ③硫酸銅をバケツ1杯程度のぬるま湯でよく溶かし、残りの全水量（80～90ℓ）に溶かす。
- ④②の石灰乳に③の硫酸銅液を攪拌しながら徐々に加えて100ℓにする。

【第10回ぶどう農薬散布】

散布時期	8月上旬～8月中下旬										
散布薬剤	水	100ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td colspan="2">ℓ</td></tr></table>			散布日	月	日	散布量	ℓ	
	散布日	月				日					
散布量	ℓ										
	ICボルドー66D	2.5kg									
	ビックマグ（葉面散布剤）	100g									
	＊ICボルドー66Dに代えてボルドー液を使用する場合は、展着剤を水100ℓあたり10ml加用し、「4-4式（生石灰400g・硫酸銅400g）」「ワインぶどう4-2式（生石灰200g・硫酸銅400g）」とする。										
散布量	たっぷり 400ℓ以上										
適用病害虫	べと病・晩腐病・さび病										
注 意 点	① 建物・ハウス等への農薬汚れが心配な場合はICボルドー66Dに代えて、コサイド3000の2,000倍 または ムッシュボルドーDF 500倍を散布してもよい。（農薬の粉立ちがしにくい） ② アメシロ・スカシバ発生園はアディオ水和剤2,000倍（収穫7日前まで5回）を散布する。 ③ スリップス（クモ、やぶ蚊）発生園は、テルスター水和剤1,000倍（収穫14日前まで2回）を散布する。 ④ 死角、園地外周等散布ムラのない様に散布する。 ⑤ 防除の際、隣接地がアスパラガスの場合は事前に園主へ連絡してください。 ⑥ ボルドー液は、もも・プラムに薬害が発生するので隣接園は絶対かからないようにする。										